

第一回大統領候補テレビ討論でトランプ氏勝てず。バイデン氏に軍配!!?**4年前のクリントン氏とのたたかい**

4年前の米国大統領候補の第一回テレビ討論は、クリントン氏が「最低賃金を引き上げ、インフラや先端技術、再生エネルギーへの投資で一千万人の雇用を創出する」と述べて、「再生エネルギーへの投資」を除けばアベノミクス同様の絵に書いた餅の万年政策を言うだけだったのに対し、トランプ大統領は、オハイオ州、ペンシルベニア州等具体的な地域をあげて産業空洞化の深刻さを指摘し、企業が海外に流出し雇用が海外に盗まれていることを述べ、「連邦法人税率を 35 %から 15 %に下げ、海外に流出した企業や雇用を取り戻す」ことを訴えて、クリントン氏を圧倒した。

なんとなく、バイデン氏に軍配が上がった理由

しかし、今回の第一回テレビ討論は、トランプ氏の攻撃の矛先が——バイデン氏は「47年間何もしてこなかった」ということと息子の「金儲け」——に執拗に向けられ、トランプ氏の「あせり」が目立つものとなった。4年前にラストベルトの多くの白人労働者を引きつけた——「海外に流出した企業や雇用を取り戻す」ために「連邦法人税率を 35 %から 15 %に下げ」る——という虚構は破綻し、白人労働者層への強い訴求力を欠くものとなり、彼らを引きつけるものは「Make America great again」という空文句だけになってしまった。その結果、コロナを追い風に、なんとなく、バイデン氏に軍配が上がったようだ。

変われなかった民主党

4年前、「労働者が雇用を失う一方で企業の利潤が拡大するような通商政策を実施したりすべきではない」と言い、「私は政府が生産手段を所有すべきだとは考えていないが、米国の富を生みだす中産階級と労働者世帯には相応の配分があつてしかるべきだ。私は雇用を海外に移出し、利益を上げるのではなく、米国内で努力し、投資し、成長するような私企業を信じる」と主張し、トランプ氏の産業空洞化対策と対峙したバーニー・サンダース氏は、残念ながら、今回も大統領候補にはなれなかった。

国民は「カオス」の中にいる

マスメディアはこぞって今回のテレビ討論を「カオス」だという。しかし、テレビ討論が「カオス」なのではない。米国の生産の仕方の根本が崩れつつあるなかで、その解決方法を見いだせない国民が「カオス」の中にいるのだ。私たちは、私たちの国が「カオス」の渦に巻き込まれ、右翼的なナショナリズムに席卷されないように、先進資本主義国といわれる諸国の最大の課題が「産業の空洞化」であることを肝に銘じておこう。

今回のテレビ討論を通じて、日本の報道の自由度のなさを再認識

なお、今回のテレビ討論を通じて私の印象に残ったのは、右といわれる「FOX ニュース」の司会者の公平な立派な態度と、同日の日本の新聞報道とテレビ特番の内容の違いです。

左の人など登場させない日本の「7チャンネル」の新聞社の同日の電子版のテレビ討論の内容の報じ方と同日夜の「6チャンネル」の「報道 1930」の放送内容とは、当日のテレビ討論を見た人なら誰でも分かりますが、あまりにも「トランプ」より過ぎる、日本のマスコミを象徴するような報じ方でした。

「7チャンネル」について「左の人など登場させない」などというだけでは不公平の極みなので、他の新聞社系のテレビ局の態度についても一言申し上げると、「4チャンネル」と「8チャンネル」は左の人を登場させても司会者と新聞社の人と一緒にないって右の論陣を張ったり右の人だけを並べて番組を構成することが多く、「5チャンネル」と「6チャンネル」は公平性を装って「池上彰、さん的な人物に世論を誘導させることがしばしばです。

私は、今回のテレビ討論を見、日本での報道ぶりを通じて、今さらながら、日本のテレビ局の電波が「金」で歪められていることを、再認識せざるを得ませんでした。

※なお、四年前の米国大統領候補の第1回テレビ討論についての詳しい解説は、ホームページ6-2-20「第1回大統領候補テレビ討論中継でCNNが伝えたことと、日本のマスコミが報道したこと」を参照して下さい。